

オンラインGCM17

NPO/GCMの活動報告 ー今年の重点目標

1. 物づくり事業の推進
2. 出版事業の拡充(提案)
3. オンライン診療(遠隔医療)の研究着手(提案)

NPO法人広域連携医療福祉システム支援機構
理事長 周藤安造

1

1. 物づくり事業の推進

- (1) 消臭抗菌寝具の開発と実証実験
- (2) 可搬型多機能リハビリ機器(RAKKUN)
の開発と実証実験
- (3) 薬剤鑑別システムの開発

2

(1) 消臭抗菌寝具の開発と実証実験

①経過と進捗状況

交流フォーラムの場などで、そのニーズなどについて医工連携が計られ、まず東海大学伊勢原病院向けに敷布団シートと枕カバーを試作、消臭効果については実験済み。

((株)アイ・エム・ティ社)

②今後の予定と課題

- 新たに掛け布団用カバーの試作に着手。
- 現在、東海大学医学部附属病院系列の医療機関での実証実験も計画しているが、コロナウイルス感染拡大の影響もあり、遅れている。

3

(2) 可搬型多機能リハビリ機器の開発と実証実験

①経過と進捗状況

ロボット分科会などの支援を得て開発と評価が進められている。25年問題を見据えた手軽に使える四肢用小型のリハビリ機器であり、リハビリテーション専門学校との連携や製品化も検討されている。

②今後の予定と課題

たくみケアなどの医療・介護施設での臨床評価を進めており、薬事申請が急がれる。一方で、病院・施設とのオンライン接続によるリハビリ連携の実現を目指している。

4

(3) 薬剤鑑別システム

①経過と進捗状況

東海大学伊勢原病院薬剤部と(株)アリス、NPOの共同研究により、入院患者の持参薬を画像認識し、薬剤データベースから薬剤名、院内採用の有無などを鑑別・表示するシステムの開発を進めている。

②今後の予定と課題

これまでの手作業による薬剤鑑別業務をIT化した場合の効率化評価などが今後の課題である。

5

2. 出版事業の拡充

これまでNPOの出版事業は機関紙「れんけい」発行のみであったが、NPOの活動実績や技術力、臨床との連携活動などを対外的にPRするために、下記(1)、(2)の新事業に着手し、(3)について継続する。

- (1) デジタル出版の試み(新規事業)
- (2) オンラインマガジンの発行(新規事業)
- (3) 機関紙「れんけい4号」の発行(継続事業)

6

(1) デジタル出版の試み

- これまでに開催したGCM研究集会、交流フォーラム、分科会活動で蓄積された要素技術、医工連携に基づくシステム技術、および「れんけい」掲載済み記事等をコンテンツとし、デジタルベースで体系的に整理、集約のうえ、NPO、GCM会員間で共有し、内容を逐次追加、更新する。
- コンテンツの有用性などが対外的にも評価されたら、自費出版も視野に、大学院生や企業技術者などを対象にした教材出版(製本)を検討する。

7

(2) オンラインマガジンの発行(目的)

- 最先端ICTやその医療福祉への応用技術を「やさしく」解説し、高校生レベルでも理解できる内容のオンラインマガジンを発行する。
- 新規性のある優れた投稿が増えてきたら、「査読」を行い、査読者のお墨付きを得て将来は、論文誌へと発展させる。
- 会員向けの機関紙「れんけい」とは差別化し、広く無料で公開し、NPO/GCMの技術PRと会員増対策を図る。

8

(2) オンラインマガジンの発行(内容)

医療福祉およびそれを支えるICTで以下のカテゴリとする。

(1) 基礎技術

IoT、ブロックチェーン、AI、VRなどの解説

(2) 企業の持つ技術

主に企業会員による寄稿

(3) 研究中の技術

東海大学などの大学院学生、企業会員、
NPO社員などによるオリジナル論文

9

(3) 機関紙「れんけい4号」の発行

- GCM16, GCM17、第7回交流フォーラムで公開された技術やノウハウなどを中心に発行する。
また、物づくり事業や会員企業の製品紹介なども載せる。
- 2021年6月頃を目標に発行する。

10

3. オンライン診療(遠隔医療)の研究着手

まず

(1)これまでのオンライン診療や遠隔医療

(2)オンライン診療の現状

についてレビューし、その上で

(3)NPO/GCMでの取り組み

について対策を提案する。

11

(1)これまでのオンライン診療、遠隔医療

これまでオンライン診療や遠隔診療が進まなかった主な理由は、病院・診療所にとって初診が認められないなど経済的メリットがあまりなかったことが考えられている。

12

(2) オンライン診療の現状

- コロナウイルス感染拡大が引き金になり、4月10日に厚労省通達(特別措置)が出され、初診診療や特定疾患管理料などが認められ、音声電話のみを含めてどんな方法でもよいということになった。
- 現在、LINE通話やiPhone/Macに標準のFaceTimeでも診療が可能となっているので、事実上初期投資ゼロで参入できる状況。

13

(3) NPO/GCMでの取り組み

- ①特別措置は見直される可能性があり、今後の動向を注目していく必要がある。すなわち、政府の骨太方針「デジタルニューディール」は追い風だが、日医は「緊急事態が収まり次第、対面診療に戻すべき」と訴える。
- ②NPO/GCMとしては臨床サイドと連携し、オンライン診療(遠隔医療)普及のための技術的課題の解決に向け、多角的に取り組むことを提案する。

14

4. おわりに

以上、提案も含めて2020年の重点目標を挙げてみました。

皆様のご支援をお願い致します。